

## JR発足30年 全国安全キャラバンを展開

長崎地区本部

長崎地区本部は2月9日、拡大執行委員会を地区本部事務所で開催した後、安全問題を検証する「JR 30年全国安全キャラバン」行動を展開した。

長崎地区本部と長崎分会の役員で、大村駅と竹松駅でビラ配布と街宣行動を行い、大村地区労街宣車によりローカル線の大村線沿線でワンマン運転の安全上の問題点、無人駅の拡大によるサービスの低下や異常時の対応などの問題を訴えた。



【寒風の中でのチラシ配布、大村駅】

JRでは、車両や線路などの検査周期の延伸や線路・電気設備・出札・車両のメンテナンス業務などの業務委託が全面的に進められ、行き過ぎた規制緩和・外注化が輸送障害や鉄道事故を引き起こす背後要因ともなっている。

JR九州では、2016年11月11日に福岡・佐賀・長崎3県で架線の切断と損傷事故が発生し最大で10時間列車が止まり約17万人に影響を与えた。同22日にも工事ミスによる架線事故が発生した。

これまでも2014年6月に指宿枕崎線で「指宿のたまてばこ」の脱線事故が発生し、2015年5月には、長崎本線で特急同士が同一線路に進入し約90mまで接近するとうい一歩間違えば死傷者が出るような

重大な事故が発生した。全国キャラバン行動は、今年の4月で国鉄からJRに移行して30年を迎えたのを機に、JRの輸送業務に携わる労働組合として、都市と地方鉄道、JR各社の経営格差、構造的な問題点、安全対策等について検証している。(豊田、上之濱、島田、川崎、島、岩崎、御所、米満)

### JR九州の30年を問う！ 全国安全キャラバン行動を報告 2・25国労全国安全キャラバン報告学習会

第三博多偕成ビルにて、国労全国安全キャラバン九州報告学習会が行われた。内田副委員長あいさつの後、熊本学園大学香川政俊教授により「規制緩和と安全性」の講話が行われた。貸切バスの規制緩和で労働条件の悪化や重大事故の増加、政策転換の必要性などの話があり、その後各地区本部からの取り組みの報告が行われ長崎からは、上之濱書記長が報告を行い、最後に、内田副委員長

の団結ガンバロウで終了した。(上之濱、宅嶋、御所) 御所 義治

#### ・25国労全国安全キャラ



【報告を行う上之濱地区本部書記長】